

連載

# 37 在宅医療奮闘記

平成7年より  
在宅を開始した

私の思い出

(医)東西会 千舟町クリニック院長

橋本 満義 (63歳・内科)

## 在宅医療の痛い思い出



3年前のある日、89歳の女性独居患者さん(病名は認知症と高血圧症)の在宅医療を息子さんから依頼されました。その患者さんを診てみると、食欲不振で脱水症状、認知症による妄想そして運動障害でした。ご本人が自宅での療養を強く希望されていたようです。定期的に訪問して点滴静注をし、服薬・生活管理を指導していくうち少しお元気になりました。

そんなある日、発熱と嘔吐の症状が出たと往診依頼があり、急いで駆けつけました。ところが私は、マンション玄関で小さな段差に足を取られ前のめりに転倒してしまい、左膝を

強打してしまったのです。

その後、治療により患者さんの病状はすっかり改善し、同時に私の膝痛も回復していました。しかし1年後のある日突然、この患者さんは急性脳出血症を発症し、帰らぬ人となりました。自由気ままに人生を送ったという彼女の最期の時間を、医療と介護を通して協力させていただいた私たちに、息子さんはとても感謝してくださいました。在宅業務には色々大変なこともあります。やりがいのある仕事だとあらためて再認識したのです。

さて私の左膝なのですが、2ヵ月前の病院改

修時に中腰で作業を続けていて激痛が走りました。そこでMRI検査を受けた結果、半月板損傷との診断で、近日中に手術予定となりました。

在宅医療業務は24時間365日車で移動し患者さん宅を訪問します。移動には私たちスタッフの「安全・安心」も患者さんへの「安全・安心」とともに担保しなければいけません。

今回、私個人にとって痛い思い出となりましたが、在宅業務遂行上アクシデントはつきもので、貴重な経験となりました。

「お医者さんが来てくれる」  
質の高い在宅医療・看護・介護  
を『千舟町クリニック』は目指しています。



機能強化型・有床 在宅療養支援診療所

**(医)東西会 千舟町クリニック**

松山市千舟町6-4-9 Tel:089-933-3788

<http://www.touzaikai.jp/>